

(様式2)

教職員研究グループ活動状況報告書

代表者の所属・職・氏名	伊丹市立伊丹特別支援学校 主幹教諭 渡邊 真美	研究グループ名 音楽教育研究会	15
-------------	----------------------------	--------------------	----

研究テーマ分類番号 (18)

(1) 研究テーマ	
特別支援教育を要する子どもたちへの音楽を通した指導・支援	
(2) 研究経過及び具体的な取組	
7月12日	今年度の計画立案 ・場 所：伊丹市立伊丹特別支援学校 ・内 容：①本研究会の趣旨説明 ②昨年度の取り組みの紹介 ③所属校の現状と実態、教科における課題の発表と意見交換 ④希望する取り組みについて意見交換 ⑤子どもの課題と音楽療法について
9月28日	事例発表と検討の会 ・場 所：伊丹市立伊丹特別支援学校 ・内 容：「音楽療法と自立活動」 重度重複障害のある子どものセッション ・成果と課題：音楽療法のセッションでの子どもの様子について自立活動の視点から分析することによって、セラピストの関わり方や今後の課題について話し合うことができた。自立活動の6領域の項目から分析すると、音楽療法士が子どものどこにポイントを当ててセッションを進めているのかがわかった。参加者の中には一つひとつの活動を自立活動の6領域で分析的にとらえるのが難しい人もいたが、実践をゆっくり見ながら発表者が解説し分析していくことで、6領域の内容が理解できるものとする。
10月26日	事例発表と検討の会 ・場 所：伊丹市立伊丹特別支援学校 ・内 容：「肢体不自由のある生徒の楽器演奏」 高等部男子によるドラムを用いた音楽 ・成果と課題：脳性麻痺のある高等部男子生徒のドラム演奏の指導を1年間行った結果、運動機能面と心理面に大きな変化がみられた。 最初は片手でバチを持ってフロアタムを打つところから始まったが、ポップスに合わせてリズムを刻むと意欲が高まり、徐々

に体幹の保持が高まり上肢のコントロールが確実にようになってきているのがわかった。また心理面にも学校生活や日常生活において積極的になるなど、大きな変化が見られた。肢体不自由の児童生徒のケースでは自分の体の操作により自信が持てると心理的变化をもたらすということがわかったが、年齢に応じた教材の提供など今後検討していきたい。

11 月 16 日 事例検討とワークショップ

- ・ 場 所：伊丹市立伊丹特別支援学校
- ・ 内 容：「知的特別支援学校の小学部における音楽」
- ・ 成果と課題：小学部低学年（１～３年）における集団学習で、挨拶、手遊び、リズム、身体表現というプログラムで進められていた。スペースの使い方や、主指導以外の教員の入り方、並び方などについて意見交換した。教室環境や集団を構成している児童生徒の特徴、指導する先生の人数等によって指導の形態や曲目、楽器の選定などが変わってくる。一概にこの方法がよいというのではないが、参加者の経験から意見を聞くことができた。集団学習では集団力動という側面から個々の児童生徒についてのかかわりを検討することも必要だと感じた。